

1 学校として目指す授業

ねらいの明確な授業	見通しのもてる授業	意欲的・主体的に学ぶ授業
-----------	-----------	--------------

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
国語では、「言語文化」「読むこと」の領域が全国平均正答率を10%以上下回っている。算数では「数と計算」「変化と関係」の領域が全国平均正答率を10%以上下回っている。ほかの領域は全国平均正答率とほぼ同様である。問題文から、適切な回答を選択することが苦手である。	家庭に本が少なかったり、新聞を購読していなかったりと、児童を取り巻く言語環境は決して良好ではない。そんな中でも将来に夢や目標をもつ児童が全国を10%以上上回る70%いる。また学習の大切についても全国平均を上回る国語約70%、算数約80%の児童が分かっている。これらの意欲を学力につなげるためにもGIGA端末等も最大限に活用していくことが肝要である。

(2) 清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（4～6年生）

④友達や先生と学習することが楽しいと感じている児童は8割以上で、学習に対する意欲の高さがうかがえる。その反面、「学習していて分からない言葉があればすぐに調べようとしている」という問いに対して肯定的な回答をした児童は6割にとどまった。わからない言葉をすぐに調べることができる環境を整えていく。 ⑤教科問わず、学びに対する意欲は高く、授業が楽しいと感じている児童が9割以上だった。しかし「自分で計画を立てて学習している」という問いに肯定的な回答をした児童は7割程度であったため、問題解決学習の時間を意識的に増やしていく。 ⑥学びに対する意欲は高く、学校の授業を楽しんでいる児童が9割程である。学ぶ理由として、人と比べたり大人から評価されたりすることよりも、「将来の仕事や生活に役立つから」と自分自身のためと捉えている児童が多く見られたので、その思がより高まる声かけや授業展開を工夫していく。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析（5年生）

国語、算数ともに、市の平均程度の結果となっている。領域ごとに分析すると、算数では「変化と関係」「データの活用」、国語では「話すこと・聞くこと」のスコアが市の平均よりも下回った。算数では、朝学習の時間等で上記分野ついでの復習を重点的に行っていく。国語では、授業の中で言語活動を意識的に増やしていく。
--

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
東京都統一体力テストでは、本校は持久力に特に課題がある。児童が楽しく活動しながら持久力をはじめとする体力を向上できるよう、体育科では鬼あそびを授業の導入で取り入れたり、休み時間にも取り組める活動をしたりするなどして楽しく持久力を向上できる授業を目指す。

3 児童の学力・学習状況等の課題

・題意を正確に把握するための、読む力（正しく読み取る力）を付けていくことが必要不可欠である。
・学習した内容についての定着を図るために、定期的に復習することが必要である。
・家庭学習の習慣化が必要である。家庭の協力が得られにくい児童についても習慣化させるために、GIGA端末の活用を推進していく。

4 学校全体の授業改善の視点

基礎基本の定着をベースに、指導のねらいが明確で児童にとって見通しがもてる、意図的・計画的な授業を展開する。

【授業改善推進プランの活用法】
①「1 学校として目指す授業」を設定する。 ※学校経営方針との関連を確認すること。
②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → <u>教育指導課へ提出する。</u>
⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。 評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	言葉の動作化や言い換え等を通して、理解を深める。順序のマークやサイドライン等を活用する。				問題の場面と半具体物を通して、理解してから立式につなげられるよう支援する。				自分の生活の中で感じたことや気づいたことについて、絵や文、動作などの表現を通して実感を伴った理解につなげる。		歌詞の意味を知ったり、曲調に合わせて体を動かしたりリズムをとったりして、活動の理解につなげる。		見通しをもって取り組めるように、毎時間黒板に手順やめあて等板書し、完成品を見せたり、手順を確認して一緒に作業したりする。				各種の運動の特性に触れることのできる感覚づくりの運動を音楽に合わせて行う。				道徳的価値について教材提示の工夫をし、考えをもったり話し合ったりする場を設定する。	
中学年	目的や必要に応じて読むことで主体的な学習につなげる。国語辞典を日常的に使い語彙を増やす。		自分の考えや疑問をペアで伝え合うことができるようにする。		問題文に線を引かせたり図をかかせたりすることで、問題の場面を想起できるようにする。		観察の視点について具体的な指導を行う。比較をさせ、思考力の向上を図る。				活動内容やめあてを板書して授業の最初に説明し、児童が見通しをもって授業に参加できるようにする。		活動内容やめあてを板書して授業の最初に説明し、児童が見通しをもって授業に参加できるようにする。				活動時間を確保しながら、学習カードなどでめあてに基づいて振り返りを行う。				道徳的価値について導入と教材のつながりを意識した発問をし、議論をして互いの考えの違いに気付かせる。	
高学年	日記や感想など文章を書く機会を日常的に設定したり、話し合い活動を充実させたりする。		小グループで、ともに調べたり、教えあったりする学習を意図的に設定する。		問題文を数直線図などに表すなどして、問題の意味理解を深める活動を充実させる。		観察の視点について具体的な指導を行う。実験を通し、思考力の向上を図る。				ねらいにそった有効的な学習活動を考える。また、グループ活動を取り入れ、主体的・協働的に学ぶ姿勢を育む。		ねらいにそった有効的な学習活動を考える。また、グループ活動を取り入れ、主体的・協働的に学ぶ姿勢を育む。		動画等を活用し、活動を視覚的に捉えやすくすることで安心して活動できるようにする。		児童一人一人が楽しみながら、技能を身につけることができるような場を設定する。		ALTと連携し、発音練習を多く取り入れる等、英語表現に慣れる活動を充実させる。		道徳的価値について自己の経験を基に議論し、互いの考えを受け止めたうえで、自分の考えや実践意欲が持てるように、発問を工夫する。	